

## 編集後記

COVID-19の感染拡大、いわゆるコロナ禍の中での司書課程運営も今年度で3年目となった。年度前半はやはり影響が大きく、図書館ガイダンス・ホームカミングデーや、教員が引率しての図書館見学ツアーの実施は今年度も見送ることとなった。しかし年度後半には感染状況も落ち着き、また2023年5月からは感染症法上のCOVID-19の扱いが5類に変更される予定であることが報じられるなど、もちろん以前と全く同じとは言えないものの、様々な制限が解除される、あるいは今後解除される見通しが立った状況となっている。このような状況を受け、今年度は実に3年ぶりに司書課程講演会を実施し、筑波大学図書館情報メディア系の逸村裕教授にご講演いただいた。同講演の記録も本年報に掲載の通りである。図書館現場演習も例年通りの日程等で受け入れてくださる図書館も多くなった。また、2023年度には図書館ガイダンス・ホームカミングデーも開催する方向で検討を進めており、図書館見学ツアー等、コロナ禍以前の行事の復活も順次検討の予定である。この3年間、司書課程受講生・DUALISの学生諸君には十分な機会を提供できないもどかしさと申し訳なさがあったが、その中でもDUALISは様々な活動模索してくれていたことは長尾さんの「よりぬきDUALIS日誌」にもある通りである。また、残念ながら編集作業の遅れにより合格体験記のご寄稿は叶わなかったものの、複数名の卒業予定者から、公共図書館で専任職員として勤務することになった旨のご報告もいただいており、コロナ禍においても学生の皆さんがそれぞれ積極的に活動されていたことを有難く思う。2013年度卒業生で現在、北海道大学図書館にお勤めの西川奈緒さんには「私の仕事 この九年 公共、学校、大学図書館の現場から」をご寄稿いただいた。西川さんは九年の間に県立図書館、県立高校図書館、そして大学図書館と三つの館種で勤務されている。本学司書課程OBが様々な活躍いただいていることをご関係者の皆様にも知っていただければ幸いです。ご講演・ご寄稿いただいた皆様に改めて心より感謝申し上げます。

2022年度は司書課程関連業務を再び、免許資格課程センターの谷口様にご担当いただきました。また、司書課程関連業務の補助も、再び矢野様にお願いしております。課程運営業務に多大なご尽力をいただいたお二人にこの場を借りて感謝申し上げます。印刷をお願いしている木村桂文社様、協力いただいた学生諸君にもあわせて、ここで感謝申し上げます。皆様、本当にありがとうございました。

原田隆史先生の巻頭言にあるとおり、2022年度は本学司書課程70周年にあたる年でした。また、佐藤が本学司書課程に勤めて丸10年が経過したことにもなります。日頃、本学司書課程にご協力いただいている皆様、また一教員・研究者としての佐藤がお世話になっている皆様にも、大過なくこの10年間を経過できたことについて、心より感謝申し上げます。

(佐藤翔)